

令和7年3月12日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立大鳥中学校
校長 金澤 誠

令和6年度 目黒区立大鳥中学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和6年10月15日(火) 午前9時45分～午前10時35分
 - ・学校評価について
- (2) 第2回実施日時 令和7年2月4日(火) 午前9時45分～午前10時35分
 - ・学校評価の結果について
 - ・協議

2 参加者 学校評議員

3 評価の結果等 ※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎学校生活全般について生徒、保護者、教職員が充実ぶりを実感できる教育活動を行えた。 ●地域の方々に本校の教育活動を知っていただく機会が少なかった。	次年度は周年行事に向けて、地域の方々とより連携を強化して取り組んでいく。本校の教育活動を広く周知する工夫をしていく。	周年行事に向けて学校と地域がより一層連携していく。
II 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎人権尊重の理念に立った教育目標のもと、教育活動を行うことができた。昨年度までの人権教育の研究成果を生かすことができた。	人権尊重の理念に立った教育目標のもと、引き続き教育内容の充実に取り組んでいく。	引き続き人権教育の推進に取り組んでほしい。
III 心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	◎道徳教育の目標について共通理解を図り、指導と評価の一体化に取り組んだ。昨年度の成果を生かし、人権尊重の視点に立った道徳教育の推進を図ることができた。	人権尊重の視点に立った道徳教育のより一層の充実に努める。道徳授業地区公開講座により多くの保護者・地域の方々に参加していただけるよう、連携して取り組む。	より多くの保護者に道徳授業地区公開講座に参加してもらい、道徳教育への理解促進を図る。
IV 学習指導等について	◎学習用情報端末の活	学習用情報端末や ICT	学習用情報端末の活用

<ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>用率が飛躍的に向上した。</p> <p>●主体的に学習に取り組む態度や学力が身に付いたと実感できていない生徒が増えた。生徒個々のニーズにどう応えていくかが大きな課題である。</p>	<p>の効果的な活用について校内研修を充実させ、活用の更なる推進を図る。特に、学ぶ意欲を高めるための導入の工夫や個別最適な学びの実現のための活用方法について全教職員が積極的に学び、実践を積み重ねていく。</p>	<p>を促進する一方で、情報モラルについてもしっかりと指導してほしい。</p>
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>●特別支援学級で朝のランニングを取り入れるなど、工夫して体力の向上に取り組んだ。運動習慣の個人差が著しく、学校におけるこれらの取組に対して実感できている生徒とそうでない生徒がいる。</p>	<p>「心身の健康な体づくりは学校生活の根本である」ことを全教職員が再確認し、栄養士や養護教諭とも連携し、教科横断的に食育や健康教育の充実に取り組み、心身の健康な体づくりへの子どもたちの関心・意欲を高め、体力の向上を図る。</p>	<p>心身の健康な体づくりに生徒が興味・関心を持ち、意欲的に取り組めるよう工夫してほしい。</p>
<p>VI 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて 	<p>◎学校行事を通して、生徒たちの主体性や協調性、リーダーシップやフォロワーシップが育っている。</p> <p>◎特別支援学級と通常学級との交流、特別支援学級間の交流、特別支援学校との副籍交流等、各種交流をすすめることができた。</p> <p>●区主催の行事が多すぎるため、非常にハードなスケジュールを強いられており、教員だけでなく生徒も多忙感を感じている。</p>	<p>特別活動のより一層の充実を図るため、各行事の取り組み方をもう1度見直す。活動内容を精選し教育効果を得られるものとしていく。</p> <p>地域人材の活用など、地域と連携した取組を推進する。より多くの地域の方々に学校行事に来ていただけるよう周知を図る。</p>	<p>特別支援学級は、地域との交流でも大活躍して保護者の間でも評判になっている。</p> <p>今後の交流にも期待したい。</p>

<p>Ⅶ 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の肯定的意見の割合が大きく下がった。異動による教員の入れ替えや若手教員の増加が進んでいることや不登校対応をはじめとしたニーズの多様化にどう組織的に対応していくかが課題である。 	<p>本校の生活指導について全教職員が共通認識をもって、生徒に寄り添う指導を徹底していく。生徒にルールとマナーを身に付けさせ、規律のある学校づくりをしていく。</p> <p>不登校対応を含めた教育相談体制を充実させ、生徒一人一人の心の安定に力を入れていく。</p>	<p>別室指導や特別支援教育支援等、一人一人に寄り添ったきめ細やかな対応をお願いしたい。</p>
<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<p>◎毎月の避難訓練や安全教育を通して、自分の身の安全を守るための態度を育成することができた。今年度は警察署とも連携して不審者対応訓練を初めて行うこともできた。</p> <p>●SNSによるトラブルは増加傾向にあり、情報モラル教育の一層の充実が課題である。</p>	<p>情報モラル教育の充実を図るため以下の点に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全教育や特別の教科道徳、技術科の年間計画を見直す。 セーフティ教室により多くの保護者に参加してもらえるよう開催方法を工夫し、家庭と連携した取組を行えるようにしていく。 	<p>近年増加傾向のSNSトラブルに対処していくために、引き続き保護者の理解を呼びかけていく。</p>
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校や同じ中学校区の小学校との連携について 近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎年間を通して小中連携子ども育成プランを着実に推進することができた。近隣の幼稚園・保育園とも園行事の会場提供や職場体験等を通して協力体制を確立している。</p>	<p>次年度に向けて小中連携子ども育成プランの見直しを行った。本プランに基づき、小中が連携して引き続き児童・生徒の育成に取り組んでいく。</p>	<p>引き続き小中が連携して児童・生徒を育成してほしい。</p>
<p>Ⅷ 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の情報発信の充実について 	<p>保護者、地域、教職員三者すべてで前年度より大きくポイントを下げた。ホームページやHome&School等を活用した情報発信について再検討する必要がある。</p>	<p>学校ホームページで特色ある教育活動の紹介や各学年の様子を伝えていく。Home&Schoolで学校からの保護者への配布物を配信し、情報の共有を図る。</p>	<p>生徒にも確実に情報が届くように工夫してほしい。</p>

<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>●異動による教員の入れ替えが進み、若手教員が増加し指導する側の中堅教員の不足している中でどう人材育成を進めていくかが課題である。</p>	<p>若手の人材育成に複数の教員が関わるようにして、若手教員を孤立させない環境づくりをしていく。 教員としての資質向上のための研鑽に十分な時間を費やすことができるよう、業務の効率化を進める。</p>	<p>異動で教員が入れ替わっても若手を育成し続けられるようにしてほしい。</p>
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<p>◎「まずできることから」をモットーに、業務の効率化や業務分担の均等化をすすめることができた。 ●肯定的な回答は大きく下がっていて、働き方改革を更に協力に進めていく必要がある。</p>	<p>今回の結果を受け、全校で業務の見直しを行った。前例踏襲を排し、引き続き「まずできることから」をモットーに、業務の効率化や業務分担の均等化を推進していく。</p>	<p>引き続き取り組んでほしい。</p>
<p>XI 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 服務事故防止に向けた取組などについて 	<p>◎定期的な服務研修の実施やあらゆる機会を通じて呼びかけをすることで教員の意識向上を図った。今年度も服務事故ゼロを達成できている。</p>	<p>服務事故は気の緩みから起こることを銘記し、服務事故を起こさせない職場環境づくりに一層努めていく。</p>	<p>引き続き服務事故を起こさないよう取り組んでほしい。</p>